

木をRethink!

小菅で保全活動20年 魅力高め交流の場に

持続可能な社会の実現へ日本たばこ産業（JT、東京都港区）が地域と共に取り組んでいる「Rethink PROJECT」。その中心的な活動の一つに森を守り、魅力を高めていく「JTの森」がある。県内ではJT山梨支社が中心となり、東京都の水道水源林の一角に当たる小菅村有林で、約20年にわたり活動を継続。純粋に森を楽しむイベントを昨年新たに企画するなど、整備から活用へ活動の幅が広がっている。

- 第1期
2006年3月
2011年3月
- 第2期
2011年3月
2016年3月
- 第3期
2016年3月
2019年3月
- 第4期
2019年4月
2024年3月

JTの森小菅の歩み



初めての保全活動（2006年）は約170人が参加し、広葉樹の苗木600本を植えた。その後毎年2回のペースで植樹、間伐、下草刈り、シカの食害防止ネット設置などの保全活動を継続。ミスナラやコナラなど広葉樹4780本を植え、針広混交林の下地が完成した。

森の大切さを伝える「森林環境教育版」を設置（2010年）



広場を整備、多くの人々がピクニックでくる（2017年）



新型コロナ対策として、初のオンライン開催（2020年）



純粋に森を楽しむことに特化した新たな試みが始まる（2022年）

森のお弁当箱をつくる参加者



「JTの森は小菅村を含め全国9カ所にある。主にJT社員に環境保全の大切さを体感してもらうことを目的に各所で保全活動に取り組んでいて、小菅村での活動は村と北都留森林組合全面

「森林浴をしたり、山中の広場でコーヒーや食事を楽しんだりする一幕も。埼玉県大宮市から参加した高橋蓮さん（28）は「森の空気が新鮮で癒やされました。自然とリラックスできて、普段交流が少ない他県の方とも和やかに交流を深めることができました」と笑顔を見せた。



森を散策したり、森林浴をしたりして森の魅力を満喫した昨年11月の活動の様子。参加者は和やかな雰囲気でおしゃべりを深めた

「森の弁当箱」を作り、発表し合った。

「保全活動の継続はもちろんです。森の伝道師として魅力を発信し、交流の場として森を活用していきたいと考えています」とJT山梨支社の奈良忠克支社長。今後は一般から参加者を募集することも検討しているとし、「豊かな水を育む森のことを多くの人に知ってもらえるよう、取り組みに力を入れていきます」と話していた。

「今から皆さんに魔法を掛けます。目を閉じてください」。北都留森林組合の中田無双支事が、深緑から紅葉に装いを変えた山中に集ったJT社員やその家族に呼び掛けた。視界を遮り、聴覚や嗅覚を研ぎ澄ますことで感じる、森のにおいや息づく生命のささやき。1分ほどして目を開いた一同は、目を細め頬を緩ませていた。

「水を育む水源の森を混交林に」をテーマに下草刈りや間伐、植樹、シカの食害防止ネットの取り付けなどの保全活動を継続。30回目の節目となった昨年11月の活動では初の試みとして、整備作業はせず森の魅力や森で過ごす楽しさを体感する内容に特化した。

「JTの森小菅はどんな場所？」
中田無双さん 小菅村内の13ヶ所の村有林です。東京都の水道水源林の一角に当たり、多摩川水系と相模川水系の分水嶺に位置しています。また、登山客に人気の奈良倉山や松姫峠への登山口として多くの人が訪れる小菅村の代表的な観光ルート上にあるため、過去に整備した広場では日々たくさんの方がくつろいでいます。

「針広混交林って？」
中田さん 針葉樹と広葉樹がバランスよく並び立ち、さまざまな動物植物が息づく豊かな生態系のある森のことです。また、JTの森小菅は単なる針広混交林ではなく、これから収穫する木と次世代の木が同時に存在する「複層林」を目指しています。正しく人の手を入れれば未永く森の恵みを受け取ることができ、自然と人の共生や森のSDGs実現につながります。

「現状と今後の展望は？」
中田さん これまでの保全作業で針広混交複層林の基礎をつくることができました。今はその成長を見守りながら「森林環境教育活動の森」として利用していく段階です。JTの森を訪れた人に森の見方や自然との共生を考えてもらうきっかけとなる場所、身の回りの環境問題に気付き解決改善に向けて自ら働き掛けることができるすてきな場所になればうれしいです。



「目を閉じて、森のにおいや音を感じてください」と呼び掛ける北都留森林組合の中田無双支事
＝写真はいずれも小菅・JTの森小菅

北都留森林組合 中田無双さんに聞く
JTの森小菅ってどんな場所？

2006年

